

「観音ピックめざせメダリスト、読書通帳にチャレンジ」

取組概要

全校で「観音ピックめざせメダリスト、読書通帳にチャレンジ」プロジェクトに取り組みました。個々が自分に応じた目標を設定することで努力する姿を多く見ることができました。また、達成率も高くなり、担任や家庭で賞賛される機会も増えました。

1 学校の課題を探り

- 全校児童（128名）SRT対象5・6年生（46名）
- 教職員数 15名
- 全国学力・学習状況調査の質問紙においては、「(5)難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」、「(6)自分にはよいところがある」、「(16)授業以外でどれくらい読書をするか」の項目の数値が、他の項目に比べて低い。さらに、ASSESSの結果からは、「向社会的スキル」の値が低く、友だちへの援助や友だちとの関係をつくるスキルに苦手感を持っていることがうかがえる。このことから、努力する場を設定し、達成できたことを誉めることで、自尊感情を高める必要があるととらえました。

2 目標を立て

- ☆ 体力向上と粘り強くやり遂げる強い精神力、互いのがんばりを認め励ましあう心を育成する。
- ☆ 読書習慣を身につけ、言語活動や読解力を伸ばすとともに、情操豊かな心を培う。
- ☆ 成功体験を積み重ねることで、自尊感情を高めさせる。
- ☆ 取組について実行委員会や学校便りを通じて、地域や家庭に周知連携を図る。



実行委員会の様子

3 鍛えて、ほめてみると

【目標設定】

(1) 目標の個別化

- 観音ピックめざせメダリスト(縄跳び・鉄棒)

自分の能力に合わせて、挑戦するコースとメダルを選択できるようにし、チャレンジノート(観音ピック 2015)の表紙に記入しました。チャレンジノートには、認定の基準と各技の図等を用いた説明を記載し、今の自分の実力と目標とを比較しやすくしました。

※ ホップ・ステップ・ジャンプコースそれぞれに、金・銀・銅メダルの認定基準を設定しました。

例)縄跳び ジャンプコース(10種類の技) 金(8種目が1級・2種目が2級)
ステップコース(8種類の技) 銅(4種目が1級・2種目が3級)
- 読書通帳にチャレンジ

クラス全員で目標達成をめざす「もくもく王国(必読書)」と、個人で目標達成をめざす「読書通帳」の取組を行いました。読書通帳の目標設定では、各自に昨年度のデータを提示することで、目標冊数や目標ページ数を、努力すれば達成できる適切なレベルに設定することができました。
- 目標を共有する

毎月1回、朝の会を活用して、班の友だちと観音ピックや読書通帳の進捗状況を共有する時間をとっています。観音ピックは、コース選択制のため、同じコースを選んでる友だちと練習方法を話し合い、一緒に練習する等の姿が見られるようになっていきます。

読書通帳の目標を共有することでは、読んでいる本の情報交換につながることも多く、読書の幅が広がる傾向がうかがえました。



目標を確認(観音ピック)

【挑む】

(2) 挑む活動の日常化

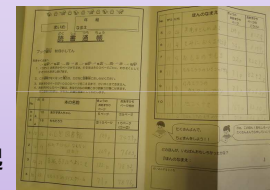
- 観音ピックめざせメダリスト

大休み(中休み)や昼休みを使って、チャレンジノートをもとに、友達と技にチャレンジし、目標の技ができれば、友達や先生に承認の○をつけてもらうようにしました。高学年は、チャレンジの時間が確保できなかったため、10・11月の大休みに、縦割り班活動で挑戦できるようにしました。また、家庭においても認定してもらう機会を設け、家庭との連携を図りながら行いました。
- 読書通帳

読書通帳に記載してある必読書や読みたい本を借りて、通帳に記録していきます。通帳の紙が一杯になったら承認してもらい、新しい通帳をはり、目標達成数ごとの確認シールをもらいます。利子として貸し出し2冊券がもらえるシステムなので、意欲の喚起につながりました。



観音ピックの様子



読書通帳

【ほめる】

(3) 賞賛の可視化

- 表彰と掲示

メダリストや多読者は、全校集会で校長先生が表彰し、中央昇降口の特設掲示板には、表彰された児童の写真を掲示しています。達成した姿を見えるようにしたことで、目標を持って努力する姿が多く見られるようになりました。
- 地域・家庭との連携

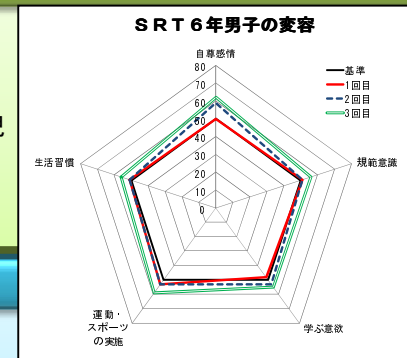
地域と結びつきが強い小規模校である本校の強みを活かし、鍛えようプロジェクト実行委員会(おらが学校委員連絡会と同日開催)を開催し、取り組みの内容を校長が説明しています。また、保護者や地域にも、学校便り等で取組の内容や児童が取り組んでいる様子をお知らせしたことにより、学校の外でもいろいろな人からほめられる機会が増え、児童の自尊感情の高まりをみるすることができました。



メダリスト

4 こんな成果があった!

- SRT調査結果から、自尊感情の上昇が顕著でした。(5年男子:+7、6年男子:+12、6年女子:+3)
- ASSESSの結果からも、自尊感情の上昇が顕著にうかがえました。自分で決めた目標に向かって挑む児童を、教師や保護者が後押し(鍛えて)し、達成できたことを認められる(ほめる)ことによって、その他の活動に意欲的に取り組むようになりました。



5 ココがポイント!

- ① 自分の能力に合わせた目標設定が大切!
メダリストの認定基準は、「努力すれば達成できる(努力しなければ達成できない)」という適切な基準であったため、チャレンジ精神の喚起や、回復可能な挫折体験につながり、意欲の持続につながりました。
- ② 取組の日常化が大切!
いつチャレンジしてもよいこととしていたので、自分のペースを大切にしながら読書通帳に取り組んだり、技の完成度を自分が納得できるレベルまで高めて認証を受けたりすることができました。読書が嫌いな児童や運動が苦手な児童の地道な努力につながりました。